

# 「TauT（トート） 阪急洛西口」 設計・監理業務について

第一建築部課長代理 岩下智一 第一建築部係員 山下純平

## 1. プロジェクトの概要

阪急京都線洛西口駅付近の連続立体交差化事業により創出された高架下空間（総延長約 1 Km・敷地面積約 11,200㎡）を活用する目的で、阪急電鉄と京都市が包括的連携協定を結び、西京区全体の活性化に繋げる官民一体となって取り組むプロジェクトです。

## 2. 開発コンセプト

高架下全体の開発コンセプトは「行きたい 住みたい KYOTO 洛西口 ～ヒトとヒトをつなぐエキはマチの縁側～」です。第 I 期プロジェクトでは「地域の魅力を再発見するエリア」として位置づけられ、駅の利便性向上・駅を中心とした賑わいの創出、人が集まる地域コミュニティの形成を目指し計画を図りました。

## 3. 高架下開発に関する行政協議とその課題解決

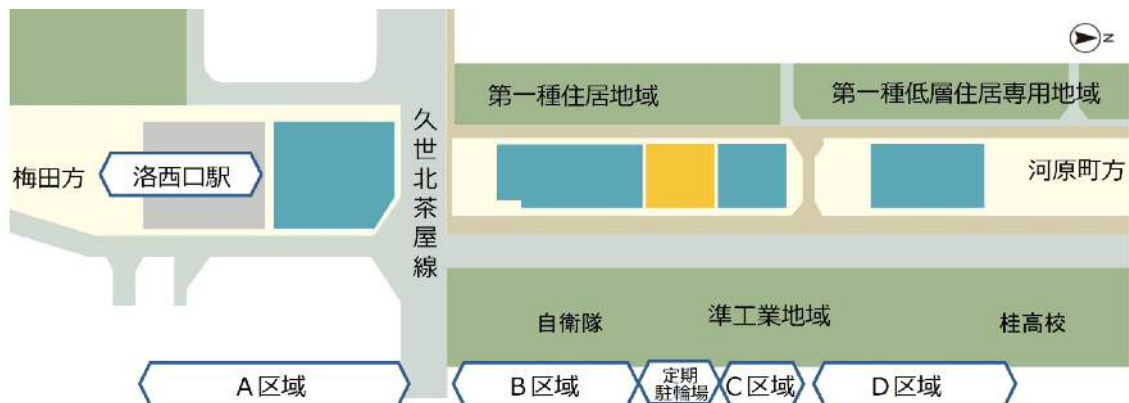
①設計当初、都市計画事業により整備された広大な高架下用地はどのような行為、規模、区画とした場合に開発行為に該当するのかがゾーニング上、重要なポイントでした。連立事業での整地（切盛）依頼と併せて用途分け・面積調整等のゾーニングにより開発行為に該当しない設計とすることができました。

②高架下空間へのインフラ引込みができる西側側道（遊歩道）は既に京都市施工で工事が着工していました。高架下計画ではゾーニング、インフラサイズ等の設計を最優先して行いつつ、京都市へは工事順序の調整等の協力を得てインフラの引込は側道工事と同時にできました。

③高架下空間への車両乗入れ用の歩道切り下げが未整備であったため、京都市施行の道路工事が進行する中、必要な場所の選定を行い、道路管理、警察等の協議を重ね、京都市の道路復旧工事の一部として施工してもらいました。今後、開発予定の向日市域側の歩道でも同様の協議を行い、切り下げを確保することができました。

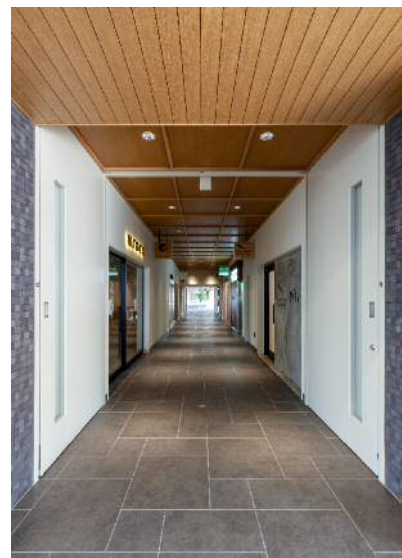
上記①～③により得られたものは事業スケジュールの短縮、工事制限の回避、工事期間中の歩行者への安全確保、そして工事コストの削減です。

## 4. 配置計画



## 5.設計方針及び工夫【I期プロジェクト全体の設計方針】

洛中ではありませんが、純和風とまではいかない「和風要素」を取入れたデザインとしました。



### 【A区域の設計方針】駅舎との調和・店舗としての主張

高架下店舗は柱・梁・屋根を駅舎の高架構造物の下に作り、駅舎と一体的に見えつつも店舗として主張ができるようなデザインとしました。また、給排気は屋根上に計画し、外壁にガラリを設けないデザインとすることで通行者に風が当たらないよう配慮しました。室外機も屋根上への設置とすることでテナント面積を出来るだけ確保する設計としました。



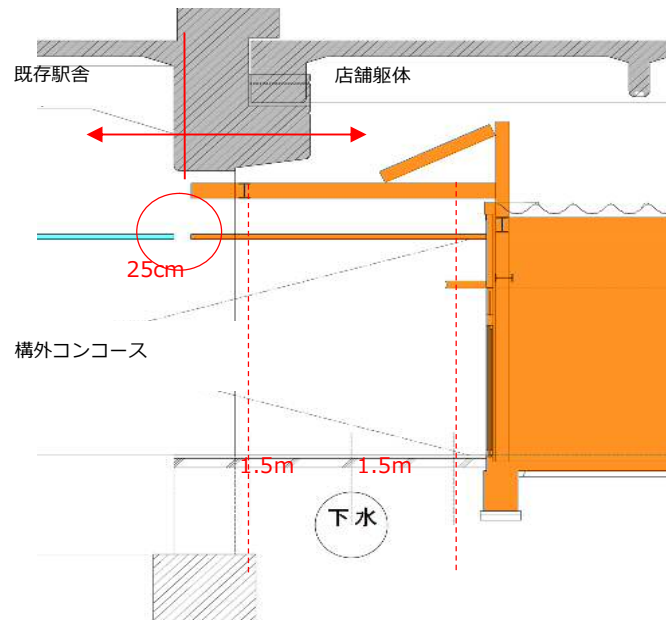
### 【B～D区域の設計方針】高架下全体での繋がり

開発コンセプトを意識し、建物や舗装、フェンスにラインを設けたデザインとし、東側に面する高架躯体柱約30本にナンバリングを行い連続性と一体性を演出しました。



### 【A 区域での設計上の工夫】

工事範囲には京都市の横断管が埋設されており、管の中心から1.5m の範囲には建築制限が設けられており、柱を設けることが出来ず、また高架躯体への荷重支持及びアンカー打設も不可であるため、天井コンコースの支持方法として店舗躯体より約4.4mの片持ち梁を採用しました。今回の店舗が建築確認申請上、既存駅舎の増築となると延床面積が1,000㎡を超え防火区画が必要となり、既存遡及を受けるので既存部分のコンコースと25cm の離隔距離を設けることで別棟扱いとなるよう、京都市と協議を行いました。



### 【B～D 区域の設計上の工夫】

- 敷地西側は第一種低層住居専用地域を含む住宅地であり、良好な住環境への配慮として以下の設計としました。
- ・テナントの天井高さを確保しつつ、高架躯体のメンテナンス性を考慮し、建物の高さを低くし、圧迫感の軽減。
  - ・景観への配慮として、高架軌道排水管の屋根上での横引きと目隠し格子の設置。
  - ・建物西側には建築基準法上必要な開口のみとし、漏れ光防止のため、開口部にはアルミパネルを設置。
  - ・騒音対策として、室外機を住宅側とは異なる面へ設置し、排気は東側へ排出。
  - ・設備機器を建物西側へは設けず、建物の裏側感を排除。



## 6.高架下での新しいチャレンジ（植栽の設置）

従来は、高架下での植栽は枯れる可能性があるため、設置事例は少ないですが、今回の計画地では高架躯体の高さがあり、日光・雨も入ってくるので阪急電鉄と打合せし、影響の少ないと思われる箇所で植栽を設けました。

高架下中央に位置する植栽は坪堀とし、プランタータイプのリース植栽とし、季節毎に入替が出来るようになっています。



## 7.おわりに

洛西口高架下開発はプロジェクト開始から3年目となる昨年度からⅠ期エリアの設計が本格的に始まりました。プロジェクト開始から数多くの打合せや問題解決に取り組み、行政とも高架下全体に対する法令上の取扱いや、工期短縮やコストの負担減、歩行者への安全配慮等、先を見越した協議も行いました。また、工事期間中には台風や地震等の自然災害も多く発生し、工事への影響もありましたが、関係者皆様の努力もあり、無事竣工を迎えることができました。現在はⅡ期エリアとして向日市域の設計を進めており、Ⅰ期同様に行政協議や今回の経験を活かし、視野を広げ、先を見越した設計を行っていきたいと思います。